

連続追及

内視鏡・腹腔鏡手術「こんな医者が危ない

リウマチ 変形性膝関節症ほか「後遺症」が残る手術

大橋巨泉 「今週の遺言」最終回 「私も薬でひどい目に遭いました」

週刊現イセ

給料の金額によっては年金を減額されるので要注意

60歳からの「得する働き方」「損する働き方」

本
医
者
が
切
り
た
が
る
け
ど
本
当
は
手
術
し
な
い
ほ
う
が
い
い
「**がん**」

生活習慣病薬 病気別「副作用」一覧

糖尿病のジャヌビアは肝臓にダメージ
リピトールで床ずれに 脳梗塞・心筋梗塞のプラビックスで眼底出血ほか

「爆買いバブル」終了で銀座の高級デパートが泣いている

7.10参院選 最新版「落ちる議員」「落ちそうな議員」の名前

「うつ病」「認知症」の薬も考え直したほうがいい

「衝撃の事実」統合失調症の薬で85人も死んでいた

それでも手術しますか、これでも薬飲みますか

断ったほうがいい「薬と手術」

医者に言われても

それでも手術しますか、これでも薬飲みますか

大反響 第5弾

矢吹春奈 未公開「ヘアヌード」

橋本マナミ エロすぎるカラダを見よ！

古瀬絵理 見納め「完熟スイカップ」

「これ以上はもう、絶対に脱げません」(本人談)

定価430円
9
Weekly Gendai
2016 July



カラー 本物のアイドルがいた時代
吹石二恵 藤原紀香 武田久美子 斉藤由貴 石田ひかり
小池栄子 菊川怜 中山美穂

「独占スクープ掘り下ろし」

※定価は本体価格(税別)です。

最新刊 講談社+α文庫 好評発売中

メデイアの怪人 徳間康快

佐高信 720円
978-4-06-281-675-5
山口組・田岡組長を陰で支え、宮崎アニメを生み出した。ナベツネも恐れた傑物、徳間書店創業者の生き様！

真説毛沢東 (上・下)

誰も知らなかった実像

ユン・チアン
ジョン・ハリデイ
土屋京子 著

●各1000円 978-4-06-281-668-8 978-4-06-281-660-1
没後40年、建国の父の正体とは？「ワイルド・スワン」の著者が、長年にわたる調査と取材をもとに、驚くべき新事実を描き出す。

元華族たちの戦後史

没落、流転、激動の半世紀

酒井美恵子

●600円 978-4-06-281-677-9
地位も財産も失った皇族・華族は、いかに昭和を生きたか。元伯爵夫人が借金生活から終戦工作秘話まで赤裸々につづる。

最新刊 講談社+α新書 好評発売中

偽りの保守・安倍晋三の正体

岸井成格/佐高信 ●800円 978-4-06-272840-8
支配と排除の安倍政治はニセモノだ！保守本流を自認する政治家者と市民派を代表する論客が、安倍政権の虚妄を衝く。

人生の金メダリストになる

「準備力」成功するルーティーンには2つのタイプがある

清水宏保 ●840円 978-4-06-272840-0

五郎丸歩や琴奨菊の原点は長野オリンピックの金メダリストにあった――。仕事や恋愛、人生に役立つ「準備」の極意!!

「ハラハラ社員」が会社を潰す

野崎大輔 ●840円 978-4-06-272850-5

何でもすぐ「それ、バワハラです」などと騒ぐ迷惑な社員。こんな「ハラ・ハラ」で職場がどんどん窮屈に！

モテと非モテの境界線

AV監督と女社長の恋愛相談

二村ヒトシ/川崎貴子

●定価:本体600円(税別) 978-4-06-272845-1
WEBマガジン「現代ビジネス」で人気の人生相談が、待望の書籍化。AV監督と女社長が現代の若者の恋愛、結婚事情に切り込む！

好評発売中

孤独って素敵なこと

浜美枝

●定価:本体1,200円(税別) 978-4-06-220135-3

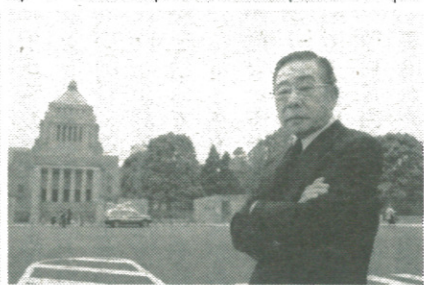
スボットライトの下の自分よりも、箱根の古民家で一人で過ごす時間が好き――女優生活50年で悟った「本当の幸せをつかむ方法」。

編集部より

「今週の遺言」最終回にあたって



大橋巨泉さんも薬でひどい目に遭いました



常に厳しく、日本の政治を監視し続けた

大橋巨泉さんには、'94年2月12日号に始まった「内遊外歓」(’06年5月6・13日号まで)、『08年10月18日号から改題してスタートした「今週の遺言」と、のべ20年にわたって連載コラムを執筆していただききました。残念ながら今回が最終回となります。読者の皆様には、長らくのご愛読を心より感謝申し上げます。

今年の4月9日号を最後に休載となつて以来、読者の皆様からも、巨泉さんの病状について多く

の問い合わせをいただきました。巨泉さんがいま、病気との大変厳しい戦いを続けられていることが、最終回には書かれています。その中で、巨泉さんも薬を投与された結果、体調を大きく崩してしまつたことが明かされています。

大橋巨泉さんは、「これがボクの本当の遺言になる」と、この原稿を週刊現代に託してくださいました。次ページから掲載する最終回を、ぜひお読みください。

今週の遺言 大橋巨泉

Will On This Week / Kyosen Ohashi

最終回

何時まで生きられるかわからない。

休載のお詫びとこれまでのお礼、

そしてボクの病状を記します。

「お 待たせしました！ 完全復活です！」と書きたいのだが、現実はそのうもゆかない。ボクは今ベッドの上で、女房の寿々子と弟の哲也と3人で、この原稿を作って

いる。幸いな事にボクのがんは今静かで、CT検査でも見えるモノはない。つまりボクは大喜びの筈のだが、昨秋の腸閉塞以降体力が戻ってこない。というより、もつと衰えた。

ボクは4月9日号の「今週の遺言」を最後に休載をしたわけだが、4月9日号の締め切りの3月17日までは原稿を書く事ができた。

しかし3月20日を過ぎる頃から体力の落ち込みが激しく、原稿を書く気力が失せて休載を余儀なくされた。その時はまだ2、3週間の休載で再開できるものと考えていた。

そこで3月27日に国立がん研究所センター中央病院に緊急入院して検査をしたが、幸いがんは見つからなかった。その時は体力の回復のために胃腸も検討されたが、ボクは延命や胃腸が嫌で拒否するつもりだった。ところが何と！ 半分しかないボクの胃が小さ過ぎるので胃腸はできないという。その上、この時点では点滴で栄養補給をする為のCVポート（胸に埋め込む点滴補助器具）をすれば自宅での在宅介護で問題ないと言われ、がんセンターを4月5日に退院したのである。しかしこの在宅介護が大ピンチの始まりになるうとは神のみぞ知るであった。

退院した5日の午後、我が家を訪ねてきた在宅介護の院長は、

いきなりボクに「大橋さん。どこで死にたいですか？」と訊いてきた。以前にも書いたようにボクは既に死ぬ覚悟はできていたのだが、「エッ？ 俺もう死ぬの？」と呆然とした。次に「痛い所はありますか？」と訊くから「背中が痛い」と答えたら、直ぐにモルヒネ系の鎮痛剤のオゾンやMSコンチンが薬局から大量に届いた。院長は毎日来るのだが特に何もしない。この頃からボクの記憶は曖昧になるので、以下は寿々子と哲也の話からです。

寿々子と哲也は、がんセンターからは「がんは無い」と言われたのに日に日に弱って行くボクを見て不安になり、哲也ががんセンターの片井均先生に、寿々子が親友の若山芳彦先生に相談をしたという。二人の先生は異口同音に「痛み止めの使用法に問題がありそうだ」と、再入院を勧めてくれた。そして10日になると在宅の院長から「今日が危ない！」と言われ、二人は余りにも急激な変化に疑問を感じて、再入院を決断したという。翌11日の朝、若山先生が同乗してくれた弟の車で家を出た

のだが、突然ボクの意識は飛んだ。そのとき若山先生が的確な指示を出してくれて、途中の病院に緊急入院の形で担ぎ込まれたという。たった5日間で意識も薄れ、歩行もままならぬ体になったのだから恐ろしい事だ。

モルヒネ系の痛み止めの薬は体内に蓄積される事で知られるが、がんセンターではボクの体力に合わせて使っていたようだ。普通の病院なら、がんセンターからの資料を読めば理解できた筈なのだが、何故だか大量に渡されたのである。何しろ九死に一生を得たのだが、82歳の老人には大打撃であった。結局、緊急入院になったために、ノーチヨイスで救命処置を受ける事になってしまったのである。

々子によれば、緊急入院の後にも普通に返事をしていたらしいがボクの記憶にはない。ボクの認識が戻り始めたのは4月末頃からで3週間は無為に過ぎた訳だ。以来、老いた体を病院のベッドに横たえ、たまに車椅子で外に出れば、直ぐに高熱を出す始末で何もできない。いずれにしても急激に良くなる事や、劇的に回



絵/松本圭以子

復するという事は無さそうだ。「ゴルフができない、ワインも飲めない、原稿も書けないのから生きていても意味がない」と言ったら、弟に「今の日本の法律では安楽死は認められていない」と言われた。嗚呼！

「内遊外歓」は94年に書き始めて586回を重ねた。今週の

遺言は今回で344回を迎えたので、合計で930回も書いた事になる。08年に「今週の遺言」として復活した時に「失うものも無いから歯に衣着せず、国でなく日本国民のために書いてゆく」と書いたのだが、それを守ってくれた講談社と週刊現代の編集部に敬意を払い、歴代

の担当者イラストを描いてくれた松本圭以子さんには感謝。それに何とんでも毎週本誌を購読して下さった読者の皆さんには心からお礼を述べさせて下さい。そしてボクが書いた事が少しでも皆さんの役に立たとすれば望外の喜びです。

実はこの原稿は寿々子と哲也と3人で、5月初めから少しずつ進めて来たのだが、今のボクにはこれ以上の体力も気力もありません。だが今も恐ろしい事や情けない事、恥知らずな事が連日報道されている。書きたい事や言いたい事は山ほどあるのだが、許して下さい。しかしこのままでは死んでも死にきれないので、最後の遺言として一つだけは書いておきたい。安倍晋三の野望は恐ろしいものです。選挙民をナメている安倍晋三に一泡吹かせて下さい。7月の参院選挙、野党に投票して下さい。最後、お願いです。

最後に、長い間の休載期間中に読者の皆さんから沢山いただいた「心配とお見舞いの言葉に對し、重ねてお礼を申し上げて筆を擱きます。長い間ありがとうございました。」